

端境期（はざかいき）に入ってようやく社長の通信簿が出る

5月という月は1年を通して荷動きが非常に少ない月だと思います。服部商店の主な取り扱い樹種の広葉樹原木の生産は完全に終了し、山に最後残った材が出材するだけです。又アメリカ針葉樹の代表的樹種のスプルース材の入荷は平生の年なら来月末から7月初頭です。又一昨年から20年ぶりに積極的に製材を始めた南洋材のアガチス原木の産地も雨季が明ける頃です。

下記に書きます数字は小生が集荷した原木の種類と本数です。服部商店の秘密事項に当たる所も有りますので主な樹種だけを数字を挙げて説明させていただきます。

	昨年9月～今年4月	一昨年9月～昨年4月
タモ原木	27本	13本
ナラ原木	39本	36本
カツラ原木	5本	16本
ウオールナット原木	34本	34本
スプルース原木	14本	3本
アガチス原木	16本	13本
チーク原木	1本	5本

上の数字を見て凄く目立つのはカツラ原木の大幅な減少です。この事に付いては毎月の服部新聞で書いていますので説明は割愛します。タモ原木を昨年比2倍買い付けていますが、これは在庫が減ってきたので昨年より多く仕入れをしました。

一番着目して欲しい数字はナラ原木です。ナラ原木はタモ原木と比較してタモ10本に対してナラ1本しか今年は輸入されませんでした。勿論ナラ・タモは輸入材だけでなく国産材も有りますが、それは一握みの材で日本国内の主なマーケットを満足させる品質を持った産地は現在ロシア材しか有りません。そんな少ない市場で昨年より多く集められたのは、少しは同業他社より単価を高く買った証拠かも知れません。しかし、昨年の11月から始まった為替の大幅な変動1ドル=82円くらいだったのが現在1ドル=100円になった事を考えれば決して少しナラ原木に対して高く買い付けた判断は間違っていないと小生は思っています。

次にスプルース原木の数字が目立ちますが、これも古い在庫調整がようやく終了したことと、昨年10月に入荷したスプルース原木が素晴らしい粒ぞろいの良質材が多く輸入された事に他なりません。商社2社から14本買い付けましたが、中身は凄く良かったです。当時14本買い付ける決心をしたのは、秋以降広葉樹原木及びアガチス原木の製材が多くなると予想したことでした。結果から見れば年明け1月にスプルース原木の最終船が入荷しましたが、忙しくて買い付けどころではなかったです。そして現在の為替動向を遡って見ると昨年10月に多くのスプルース原木を買い付けたのは正解だったと判断しています。

チーク原木の仕入れが5本から1本に大幅に減っていると数字上見えますが、チーク材原木に関して言えば凄く仕入れが多い年も有れば少ない年も有り全く平均していません。それは第一に凄く高価な樹種で有る事、第二に原木が必要な時期に買えない樹種で有る事の二つの要素が有ります。つまりチーク材は何時良質材が手に入るか全く解からない樹種なのです。在庫が多少多く有っても、良質材が手に入るチャンスが来ていたら、少々資金繰りがしんどくても購入せざるを得ない樹種なのです。

自分で自分の通信簿を判断するのは難しい作業ですが70点は挙げて良いと思います。

木味と言う言葉を大事にしてください。

木味＝色のことである事は以前の服部新聞で取り上げましたが、この大事な事をご存知ない方が凄く増えたことに小生は凄く危惧しています。

板の色を見たときこれは凄く良い色ですと言えの方が本当に少なくなっているのは材木を消費者に販売する時凄く大事な言葉です。

ネットの普及で様々な方々が木材に興味を持って使って頂けるチャンスは格段に増えていると思います。又自然素材の無垢の材木を使いたいと思う方々が増えてきているのは、実感しますが、今ひとつ盛り上りに欠けるのはそう言う方々に木材が本来持っている味わい、つまり木味の事を解かり易く説明していないのではないかと思うからです。

我々木を扱う木材業者はユーザー目線で材木を見つめ、深く追求する事をマーケットから求められているのではないかと凄く感じております。と言うのも、最近小生が経験したことを以下に書きます。

内装材に使うブラックウオールナットのサンプルをお客様に貸したのです。サンプルは2種類有りました。一枚はラフ板（長さ2メートル幅200ミリ・厚み27ミリ）です。もう一枚はプレナ仕上げ（長さ500ミリ・幅100ミリ・厚み10ミリ）です。小生はラフ板の方は鋸肌です。お施主様は多分、プレナ仕上げの方が解かり易いと思ったのですが、帰ってきたお客様のお答えは小生の考え方が甘い事を実感させるお言葉でした。

プレナ仕上げのサンプルの色は普通の色合いでした。何処にでも有る少し色の濃いブラックウオールナット色です。ラフ板は少し紫っぽいブラックウオールナット色です。2枚の形状の違う（ラフ板とプレナ仕上げ）板でも、お施主様は見事に良いブラックウオールナットを見極められたのです。

販売相手が素人なのでそんな材木の専門的な色の事を言ったら解かる事はないと決して小生は思っておりません。決して消費者を舐めてはいません。

その事『木の本当の情報』を後で知ったとき、消費者はどういう行動もしくは、どう感じるのでしょうか。多分購入した業者に不満を持つだろうと容易に感じられると思います。

確かに全ての木材を提供する時、その材が消費者の満足する色合いの材かどうかを判断する事は容易ではないし、提供した材がそのとおりの材ですという事を確認する事は不可能です。それでも良い材料を追い求める姿勢は絶対に必要です。その姿が販売するお店のカラーに反映する事は間違い無い事実だと思います。

服部商店は自家工場でタモ・ナラ・ウオールナット等の原木を製材しています。従って買い付けた原木がお客様に満足して頂ける質なのかは、製材する時直ぐ解かります。

この新聞を書いていた当時は、ブラックウオールナット原木の製材（23本を製材）を盛んにしていましたが、その時の感想ですが、原木を二つに割る作業つまり胴割りをした時に凄く木味の事は感じました。服部商店の同樹種の主な買い付け産地は色の紫っぽい産地の材ですが、産地を指定してもそれ以外の材も多少混ざってきます。

紫色に近い材は製材していく道中何故か原木の中のキズが浅いのです。そして少し色の黒い原木はキズが深いのです。

このキズが浅い・深いと言う現象が木の色つまり木味に関係しているのです。

『木味の良い木は節・キズが替わる』昔からの服部商店の教えは今でも通用します。